

平成22年度学校評価結果(概要)

学校名 大分豊府高等学校

学校教育目標	中期目標	重点目標	○成果 ●課題
自己の存在感が確かめられる充実した学校生活を通して、未来を志向し、豊かな人間性と創造的な知性と逞しさを備えた国際性に富む人間の育成に努める。	生徒の第一志望達成大分県一の進学校として地域に信頼され魅力ある学校となる ① 大学進学への支援 ② 豊府生のマナーの徹底 ③ 学習と部活動の両立 ④ 全国から注目される併設型中高一貫教育校	(1)併設型中高一貫教育体制の確立 (2)学力の向上と数値目標の達成 ① 数値目標の設定(全員の第一志望達成が基本) 高校3年:最難関大学2名、難関大学20名、国公立大学200名以上 高校2年: 2名[全県20番内(80)]、20名[200番内(70)]、200名[1600番内(56)]以上 平均点偏差値60 高校1年: 10名[全県20番内(80)]、50名[200番内(70)]、220名[1600番内(56)]以上 平均点偏差値63 (最難関大学10名、難関大学50名、国公立大学220名以上) ② 指導力の向上 (3) 人間力の向上 ① 豊府生としてのマナーの徹底 ・豊府生のマナー ・自転車通学マナー ② 文武両道の支援	○豊府中学校からの第1期生を含む第25期生280名を迎えて、新しいシステムを円滑に運用し、中高一貫の教育体制の基盤を築くことができた。 ・一人ひとりの志望達成に向けたクラス・コース編成 ・「ZERO限授業」「土曜講座」「トップレベル育成プログラム」 ・「友愛プログラム」(人間関係づくり) ○23期生は、現役のみで189名(昨年度は169名)、過年度生を含むと国公立大学200名以上の合格を達成した。 ○服装や頭髪など、豊府高校生らしいマナーについて、概ね確立できた。 ●本年度から始めた新しいシステムについて、更に徹底を図るとともに、不登校など、特別な支援を必要とする生徒への個別の指導の充実を図る必要がある。

学校運営計画						学校関係者評価	分析・考察及び今後の方策
重点目標	具体的方策	◆成果指標 ◇取組指標	評価領域	評価	○成果 ●課題		
(1)併設型中高一貫教育体制の確立	○中高一貫教育体制の確立、推進に向けて「豊府躍進プロジェクトチーム」を編成する。	◇週1回のペースで会議を実施するとともに、必要に応じてメンバーを広げ中高の連携・調整を進める。	学校運営(教頭)	2	○中高一貫の教育体制の確認や情報交換を積極的に行った。 ●会義を、月曜日の7限に組み入れたが、行事等の関係で、2~3週に1回程度の開催となってしまった。	・自己評価が謙虚すぎるのではないか。運営委員会や祝日の関係で開催できないのは、やむを得ない。 ・次年度は、他の曜日の放課後の開催も検討してはどうか。	・中高での指導内容や生徒募集など、コンセンサスを得ておくべき内容が多いので、できるだけ毎週、会義を開催する。 ・必要に応じて、中学の管理職や、分掌主任の出席を求めて、指導体制の構築に努める。
	○3ステップ制へ移行をすることにより、生徒の生活・学習リズムを円滑にし、学習意欲の喚起を効率的に図る。	◆各ステップの終了時に、学年、クラスで総括をし、それぞれの反省点を次のステップへ反映させる。 ◇年度末に生徒および教員対象にアンケートを実施し、総括を行う。その時点で変更後の満足度が80%以上を目標とする。	教務	3	○学期末に全教員による授業アンケートを実施し、長期休み期間に分析をしてそれを次学期に生かすシステムを構築した。 ○学期末から長期休業期間における成績不振者の指導の流れについて、全学年統一の指導体制が確立できた。 ●授業アンケートの内容を、教科・科目毎の授業の実態に応じたものとなるよう改善が必要である。	・先生方の意識改革が進み、目標を持っての教育が成果を出している。	・学年・分掌へ注意を喚起し、構築したシステムの確実な運用を促す。 ・今年度新たに取り決めた事項や、運用上不都合が生じた点の修正をまとめ、実務提要の改訂を行い、全職員への周知を徹底する。
	○中高一貫教育校として、学校行事の確立と充実を図る。	◇豊饒祭文化の部・体育の部を9月に連続して開催する。 ◇活動時間を確保し、十分な準備のもとに学校行事のレベルアップを図る。	特別活動	3	○豊饒祭(体育の部・文化の部)の9月中における、3日間連続開催を成功させることができた。活動時間も、5分間短縮授業などの実施により十分確保できた。 ●クラス発表の内容に重複がないよう調整して、より充実したプログラムにする必要がある。	・中高一貫の取組が素晴らしい。豊饒祭は感動的で、充実したものであった。 ・学校経営ビジョンにある「人間力」の育成のためにも、更に学校全体としての取組をお願いしたい。今の生徒が、40代、50代になった時の生き方に影響を与えるものにしてもらいたい。 ・学校行事の充実が、心身の健全育成に繋がる。	・事後に実施したアンケート調査を参考に、次年度の日程や会場を決定している。 ・各プログラムや係分担について特別活動部を中心に綿密な反省を行い、その結果を確実に次年度に引き継ぐ。また、中高生が交流する機会を増やす。 ・学校行事における豊饒祭の目的の明確化や位置づけを行い、教員間で共通認識を持つ。

	<p>○「You-Iプログラム」を県教育センターと共同して取り組み、生徒間の円滑なコミュニケーションを促し充実した学校生活を送らせるようにする。</p>	<p>◇総学の時間の内、月1回「You-Iプログラム」を実施をする。実施後必ず検証を行い、次回以降のプログラムに反映させる。 ◆成果や課題を把握し、効果的な運営をするために、年4回のアンケートを行う。最終的に肯定的回答が「自尊感情」において6割以上、「苦手と感じる相手とのコミュニケーション」で80%以上を目指す。</p>	総学	3	<p>○You-Iプログラムを2時間連続で5回行い、その度に教員、生徒による振り返りを行った。その結果、多くの生徒がその過程での目標が達成されており、友人との関係が深まったり、自分の短所を長所に変え、違う角度から自分を見つめることができている。 ●毎回実施前に、教育センター指導主事と打ち合わせを行ってきたが、一年部教員全員がそろって参加することが困難であった。また、教員側がかなり時間をかけて教材研究をしておく必要である。</p>	<p>・高校1年のYou-Iプログラムの取組は非常に素晴らしい。人間力育成において、最も大切なのはコミュニケーション能力育成である。更に、積極的な取組をお願いしたい。 ・内進生と高入生が仲間として学んでいると認識している。</p>	<p>・教育センター指導主事との事前打ち合わせの時間を計画的に確保する。 ・正、副担任の連携をより図るため、指導主事との打ち合わせ後、事前の授業研究を行う時間を確保する。 ・今年度の反省を生かし、その授業におけるポイントを整理し、新年度当初に学年部の教員全員へプログラムの目的計画等を説明し、共通理解を図る。</p>	
	<p>○不登校傾向の生徒を早期に発見できる体制を整備する。 ○外部機関と連携し、多様な生徒に対応した教育支援を行う。</p>	<p>◇ストレスチェックや個人面談により、気になる生徒は早期に教育相談を行う。 ◇欠席統計を小まめにチェックし、2週連続して2日以上または月に3日以上欠席があった生徒は自動的にチェックリストに載せ、診断する。 ◇教室での授業参加が困難な生徒に対し、SSルームを活用しながら個別カリキュラムを作成し、教室復帰を支援する。 ◇ケースにより、教育センターや新生特別支援学校と連携を図る。</p>	教育健康相談	3	<p>○6月実施のストレスチェックと月例統計で、悩みやストレスを感じている生徒を早期に発見することができた。 ○特別支援教育推進委員会を定期的に関き、教員間の共通認識を確認し、SSルームでの支援体制を整えてきた。 ●校内においては、教育健康相談部と学年部の連携の強化や、各家庭への更なる支援が必要である。 ●外部機関(医療機関等)との十分な連携が必要である。</p>	<p>・不登校の生徒が増えていることは気がかりである。 ・不登校生徒の対応については、初期対応が最も重要である。 ・教育相談における中高連携を図ることを考えてもらいたい。 ・学校と保護者との連携が必要であるので、連絡を緊密にお願いしたい。</p>	<p>・ストレスチェックでは、「HyperQ-U」を年2回実施し、学年検討会を持つ。 ・今後、ますます支援を必要とする生徒が増加することが予想されるので、中学に配置されているスクールカウンセラーの協力を得られるように、教育相談部としてコーディネートする。 ・新生支援学校のコーディネーター、大学等の専門機関、医療機関の関係者などでケース会議を開き、個に応じた生徒の指導を検討する。</p>	
	<p>○「学習方法習得体験ゼミ」により学習方法を体験的に習得させ、学習習慣を確立させる。 ○「自学タイム」を全学年で取り組み、自主学習の習慣を身につけさせる。</p>	<p>◇全学年とも1学期当初「学習方法体験ゼミ」を2日間、「自学タイム①」を4月末までの放課後、「自学タイム②」を5月6日以降実施する。 ◇対外模試の結果およびスタディサポートの学習実態調査により検証を行う。 ◆家庭学習時間の平均が1・2年で3時間以上、3年で4時間以上とする。</p>	教務	3	<p>○1年生の「学習方法習得体験ゼミ」は高校の学習に切り替えさせる上でも大きな成果があった。 ○「学部(まなぶ)」と称する取り組みを開始し、自学室の設置と開放を放課後と長期休業期間行った。 ●平日の学習時間は1年153分、2年151分(10月)であり、学習時間の十分な確保が必要である。</p>	<p>・全ての生徒の学力保証をしようとする姿勢は、豊府高校の伝統として素晴らしい。 ・数値化することは必要だが、数値化されない面についての配慮をお願いしたい。</p>	<p>・生徒の学習環境の整備を行い、放課後や長期休業に学校で学習する生徒を増やす。(3年生の卒業記念事業として、視聴覚室の学習機の整備を終えたので、新年度はその活用をはかりたい)</p>	
<p>(2)学力の向上と数値目標の達成 ① 数値目標の設定 (全員の第一志望達成が基本) 高校3年:最難関大学2名、難関大学20名、国公立大学200名以上 高校2年: 2名[全県20番内(80)], 20名[200番内(70)], 200名[1600番内(56)]以上 平均点偏差値60 高校1年: 10名[全県20番内(80)], 50名[200番内(70)], 220名[1600番内(56)]以上 平均点偏差値63 (最難関大学10名、難関大学50名、国公立大学220名以上) ② 指導力の向上</p>	<p>○ホームルーム活動・講話・集会・面談をいっそう充実させ、持てる志を引き出し大きく伸ばす機会を設定する。 ○目標達成状況を教職員間で随時確認・共有し(学力分析会等の充実)、チームワークを組んで指導改善に活かす。</p>	<p>◇集会・面談等は教職員で足並みを揃え、事前に分掌・担任会等で意義や持ち方を充分検討し、効果的なものとなるよう計画的に実施する。 ◇分析会等は各学年3回以上実施する。その際進め方や各統計資料の様式を工夫し、指導の軌跡を客観的に検証して即時改善できる態勢を作る。</p>	進路(学年)	3	<p>○機を捉えた集会を、各学年とも実施した。 ○模試の結果を踏まえて分析会を実施し、その後の指導に活かしている。また今年度は資料もA4に統一し、見やすい資料を心がけている。 ●分析会等に、当該の学年以外からの参加者が少なく、若手教員の学習の場とすることが必要である。</p>	<p>・現在の高校2年について、次年度も、現3年のような充実した指導をお願いしたい。 ・進路指導において、PTAが積極的にバックアップしていることが評価できる。今後とも、生徒、先生、保護者が一体となった充実した取組をお願いしたい。 ・あまりにも取組が多く、生徒や先生の加重負担になっていないか気がかりである。心に余裕を持てるように配慮が必要である。</p>	<p>・異学年や他校との情報交換を活発にし、より効果的な集会や反省会を企画する。</p>	
	<p>○応用力養成のための「土曜講座」、基礎基本の定着のための「ZERO限講座」を年間通して実施する。 ○トップレベル育成プログラムを段階的に実施し、難関大志望者を増やすとともに、難関大進学に対応した学力向上を図る。</p>	<p>◇「土曜講座」を年間16回(3年は10回)、「ZERO限講座」は年間160日(3年は130日)程度実施する。 ◆高2、3については「2. 20. 200」の数値目標の達成を目指す。高1については、同じく「10. 50. 220」の達成を目指す。</p>	<p>◇「土曜講座」を年間16回(3年は10回)、「ZERO限講座」は年間160日(3年は130日)程度実施する。 ◆高2、3については「2. 20. 200」の数値目標の達成を目指す。高1については、同じく「10. 50. 220」の達成を目指す。</p>	進路(学年)	4	<p>○土曜講座、ZERO限講座は、予定通り順調に実施できた。対外模試においても、成果が現れている。 ●高2・高3は、難関大の合格数の見通しがなかなか厳しい状況にあり、添削指導等の充実したシステム作りが必要である。</p>	<p>・現在の高校2年について、次年度も、現3年のような充実した指導をお願いしたい。 ・進路指導において、PTAが積極的にバックアップしていることが評価できる。今後とも、生徒、先生、保護者が一体となった充実した取組をお願いしたい。 ・あまりにも取組が多く、生徒や先生の加重負担になっていないか気がかりである。心に余裕を持てるように配慮が必要である。</p>	<p>・難関大対策については、更に教科研修の充実や先進校の視察等を、積極的に推進する。</p>
	<p>○「キセキノート」の活用により、自主学習態勢を確立し、自己管理能力を高める。</p>	<p>◇高1を中心に毎日のホームルーム活動の中で「キセキノート」活用をする。 ◆「学習を中心とした生活ができてい」る生徒、「部活と学習の両立ができてい」る生徒の割合80%以上を目指す。</p>	<p>◇高1を中心に毎日のホームルーム活動の中で「キセキノート」活用をする。 ◆「学習を中心とした生活ができてい」る生徒、「部活と学習の両立ができてい」る生徒の割合80%以上を目指す。</p>	進路(学年)	3	<p>○学習を中心とした生活、部活と学習の両立については、かなり定着していると言える。 ●「キセキノート」については継続的な取り組みになるよう改善すべき点は見直す必要がある。</p>	<p>・「キセキノート」については、紙ではなく、ノート形式のものを検討する。また内容についても、更に中身の濃いものにする。</p>	

	<p>○他校との連携も視野に入れて研究授業を各教科で複数回実施する。</p> <p>○授業アンケートを実施し、授業改善につなげる。</p> <p>○「E-Week」期間中を授業研究期間と位置づけ、それぞれで授業研究を行う</p>	<p>◇各教科で1回以上の指導主事を招聘した研究授業を実施する。</p> <p>◆「E-Week」期間中の延べ参加人数200名を目標とし、中高相互の授業参観は全員を目標とする。</p> <p>◆「授業に満足している、理解できる」など肯定的な評価をする生徒の割合70%以上を目指す。</p>	教務	3	<p>○学期末に職員全員が担当クラスで授業アンケートをとり、長期休業期間にその分析をして、次学期に生かす取り組みを今年から開始した。各自の分析シートによれば、生徒の満足度・理解度は概ね良好であった。</p> <p>●E-Weekは、2回共、参加数が目標を下回った。特に中高相互の参観が少なかった。</p>	<p>・教員は、何よりも教科指導力が必要である。今後とも、授業改善の取組をお願いしたい。</p>	<p>・中高の相互の授業参観を促すことにより、指導力の向上を図る。</p>
<p>(3) 人間力の向上</p> <p>① 豊府生としてのマナーの徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊府生のマナー ・自転車通学マナー <p>② 文武両道の支援</p>	<p>○みなり・あいさつ・交通安全等のマナーを各種活動を通じて啓蒙し職員・生徒に浸透させる。</p> <p>○清掃活動を通じて校内環境を整備する。</p>	<p>◇各学年毎にマナー講習会を実施する。</p> <p>◇生徒必携の内容をLHR等を活用し、年度当初に周知徹底する。</p> <p>◇豊府タイムスを隔月で発行する。</p> <p>◆交通事故・服装頭髪違反ゼロを目指すとともに、ゴミのさらなる減量を図る。</p>	生徒指導	3	<p>○マナー講習会は予定通り1年生は4月のHCC(マリンカルチャーセンター)で、3年生は9月に実施済み。2年生も2月末に実施。講師が素晴らしいので、生徒の心に響いた感がある。</p> <p>○豊府タイムスは隔月で発行している。</p> <p>●リニューアルした生徒必携の内容説明は行ったが、徹底には至っていない。</p> <p>●事故はゼロにならないが、服装頭髪の違反者は激減している。豊饒祭のゴミの量が例年に比較して激減(半分以下)した。</p>	<p>・生徒の交通事故が心配である。自転車整備も含めた取組をお願いしたい。</p> <p>・生徒指導面を通じた人間力の育成が重要である。</p> <p>・携帯電話やインターネット関係のトラブルについては、人権尊重の視点と家庭教育の充実が必要である。</p>	<p>・今まで以上に、豊府タイムスを生徒に役立つものにする。</p> <p>・生徒必携の改訂に向けて早い時期から取り組む。</p> <p>・交通(特に自転車)マナーの向上に継続して取り組む。</p> <p>・その他、各種マナーの向上を図るため生徒向けのみならず教職員向けの講習会も企画する。</p> <p>・清掃活動の強化を図り、校内美化に努める。</p>
	<p>○部活動・生徒会活動の活性化を図るとともに、勉学との両立を支援する体制を確立する。</p>	<p>◇活動時間を遵守させるとともに、月曜日をNO部活デーとする。</p> <p>◆部活動への入部率60%を目標とする。</p>	特別活動	3	<p>○部活動への入部率は70%を超えている。</p> <p>○どの部も活動時間を遵守して、月曜日のNO部活DAYも守られていた。</p> <p>●19:30までに学校の敷地の外に出ることが守れないことがあった。</p> <p>●0限授業が始まり、部活動が開始できる時間が17時頃に下がった。また、その後も教科の追指導などで全員が揃う時間はさらに遅くなり、活動時間がかかり減少している。</p>	<p>・人間力の向上のためにも、部活動の活性化が必要である。部活動により、自己の問題解決能力も身につく。</p> <p>・部活動への取組が、学校全体の勢いに関係するし、中学生の注目度も大きくなる。是非、文武両立の学校にしてもらいたい。</p>	<p>・特活部で不定期に巡視を行い、部活動の時間が守られているかをチェックする。また、下校時間を過ぎても学校に残っている生徒は、直接指導する。</p> <p>・部活動誌『樺』の発行、部活オリエンテーション、新入生歓迎週間を実施する。</p> <p>・教務部や進路指導部と連携して、部活動の時間を確保する方策を検討する。</p>